



装飾古墳 永遠の彩り

—古代九州 壁画が語る祖先の思い—

I はじめに

II ビデオ上映

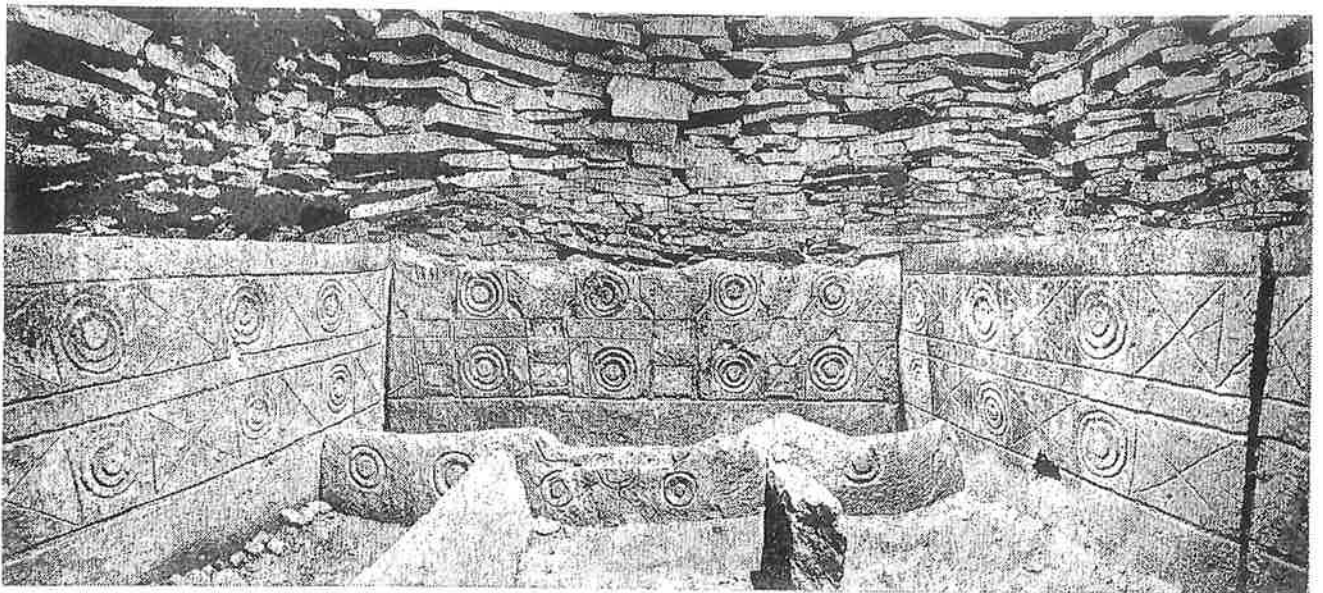
装飾古墳 永遠の彩り —古代九州 壁画が語る祖先の思い—

NHK 九州沖縄スペシャル 平成17年(2005)4月15日放送から

III 講話

北部九州の装飾古墳とその展開

IV おわりに



千金甲1号墳の石室 石障構成の石室内を4区に分け、同心円文と靱を浮彫し、赤・青・黄で塗り分けてある。

【お知らせ】

次回の館長講座は3月8日(日)13:30~(2時間程度) 講義室にて開催いたします。

北部九州の装飾古墳とその展開

西谷 正

九州の古墳文化を特色づける顕著な現象の一つとして、古墳内部の埋葬施設に各種の装飾を施したものがあつた。そのように装飾古墳とひと口にいつても、装飾文様といひ、装飾が施される手法や場所といひ、実に複雑である。埋葬施設に対する装飾は、しばしば、その種類によつて異なることが普通である。九州の石棺の場合、横口式の家形石棺に顕著なものがあつて、福岡県石人山古墳のそれは代表的なものである。すなわち、寄棟の屋根形をした棺蓋の長側面に、円文と直弧文を浮彫りで接続している。そして、もとは全面に赤色顔料が塗られていたようである。この石棺は装飾文様をもつものとしては、最古に属し、五世紀中葉ごろと思われ。石棺に装飾を施す手法は九州での創案になるとしても、直弧文などに畿内との関連性は否定できない。

つぎに、熊本県を中心とした中部九州で、古式の横穴式石室の側壁に沿つて石障と呼ばれる板石を立て、そこに装飾文様を施すものがあつた。熊本県井寺古墳は典型的なもので、直弧文や同心円文などを線刻し、その上に赤・白・青・緑の四色で塗り分けている。六世紀に入ると、肥後の北半部地方では、そのような石室の中に、石屋形と呼ばれる構造物が見られるようになるが、六世紀中ごろにはそれらが筑前地方に及び、福岡県王塚古墳に好例を見る。石^{屋形}をもつ熊本市千金甲三号墳では、石^{屋形}の図文から直弧文がなくなり、鞆を浮彫りさせていて、幾何学文から形象図文への変化がうかがえる。簡単な幾何学文や形象図文は、王塚古墳で見られるように、横穴式石室の壁面を飾る彩色壁画として、著しい発達を見せる。王塚古墳は、複室構造をもち、まず、前室の左・右の壁面には、それぞれ上・下に二頭・一頭ずつ馬が赤と黒で描かれているが、乗馬の人物像は意外に小さい。そして、その周囲には、赤・青・黄の三色で、双脚輪状文・蕨手文・三角形文などを埋めている。後室への入口に当たる楣石にも、赤地に、双脚輪状文・蕨手文を黄・緑色で描く。

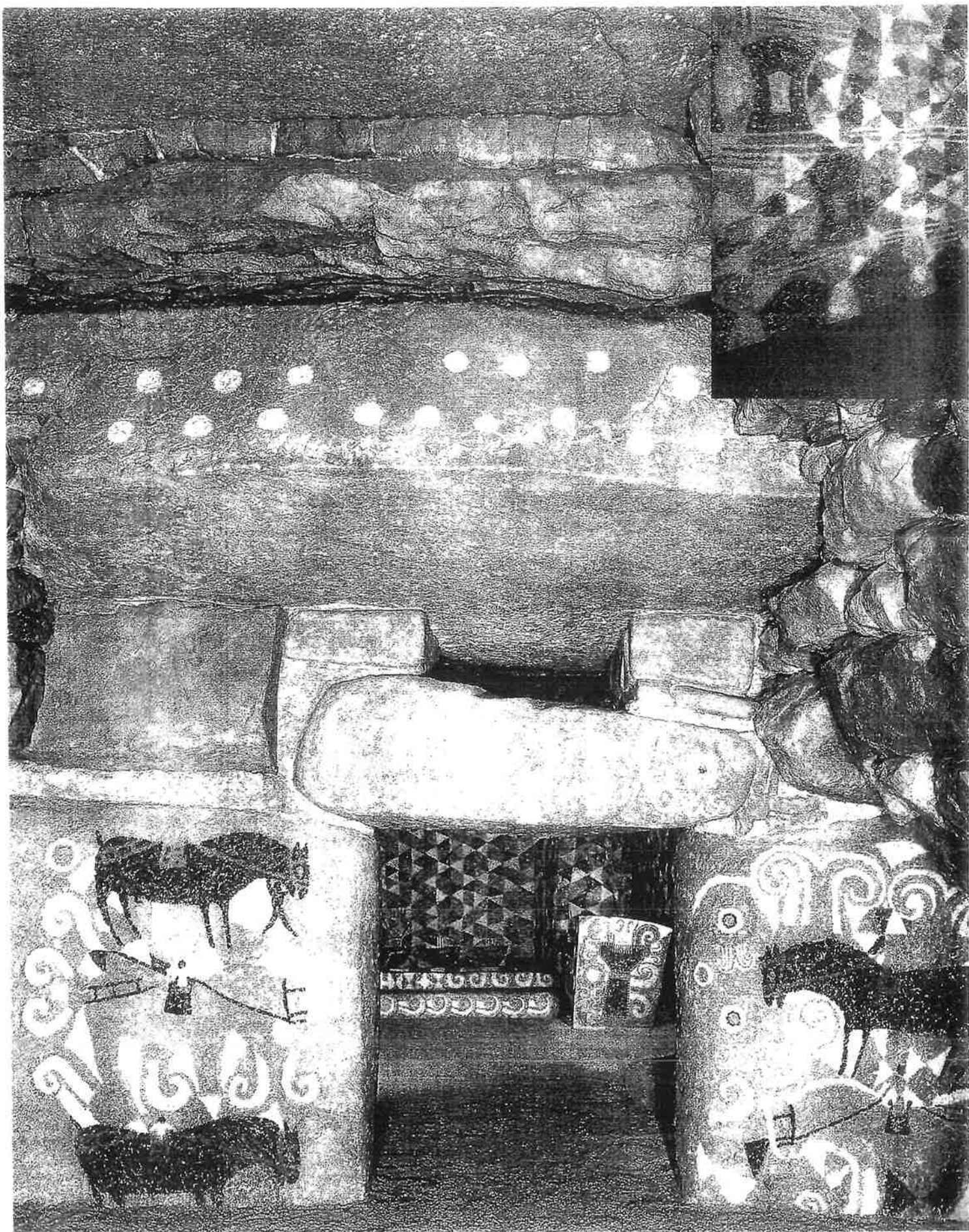
ついで、後室に入ると、四壁に彩画が見られる。いずれも、巨石からなる下段に彩画が見られ、上部から天井まで一面に赤色を塗った上に、ところどころに黄色の珠文を配している。左壁には、下段に三角形文を地文に白色で楯が二段に線描きされる。いっぽう、右壁には、鞆の図を中心に、連続三角形文でその他の空間を埋めている。前壁には、連続三角形文を地文として、右側では上・下二段に赤色と黒色を使つて鞆とその間に大刀や弓を描き、左側では鞆のほか

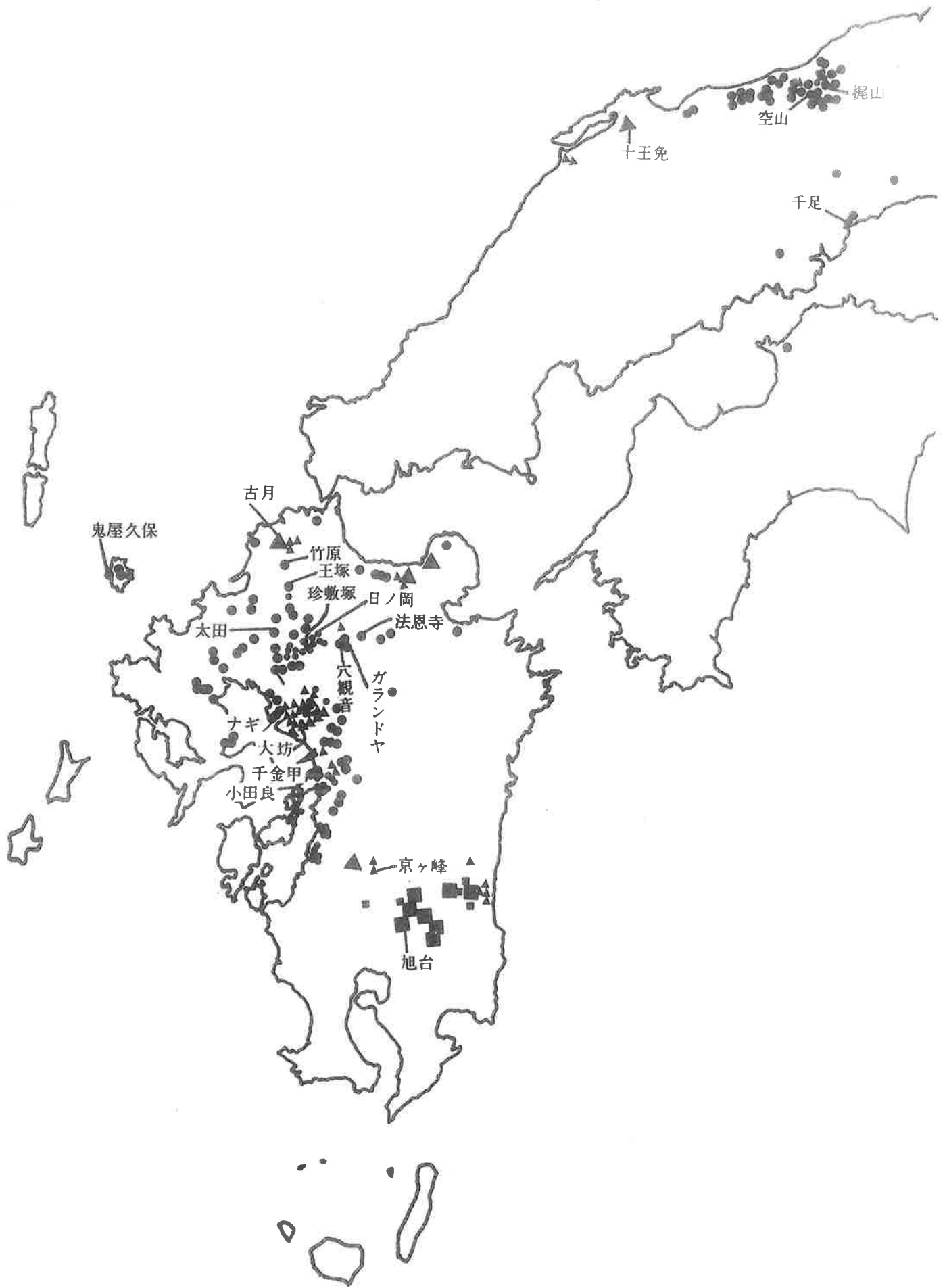
に蕨手文を含む。奥壁の手前につくられた石屋形の左・右・奥・天井には、赤・緑・黄・黒色の三角形文で飾られ、その下に置かれた棺床に接する奥壁の下部には靱が描かれる。なお、棺床には、蕨手文や三角形文の縁取りが施される。石屋形の前方で石障を介在して灯明台石が一对置かれているが、その前面には靱と、蕨手文・双脚輪状文などを組み合わせて、赤・青・黄の三色で描かれている。

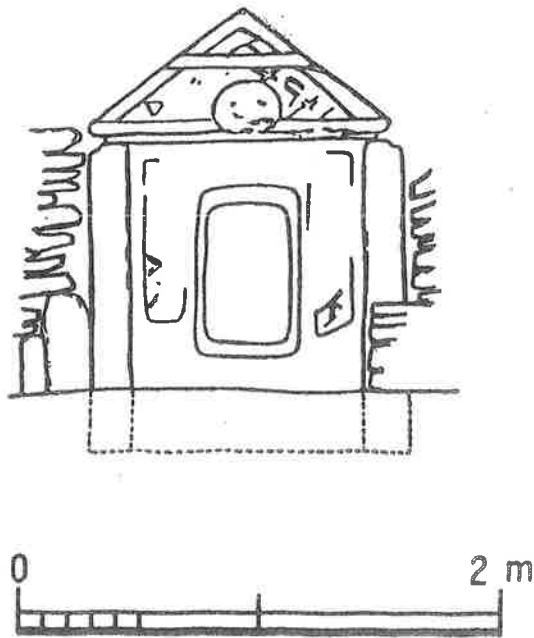
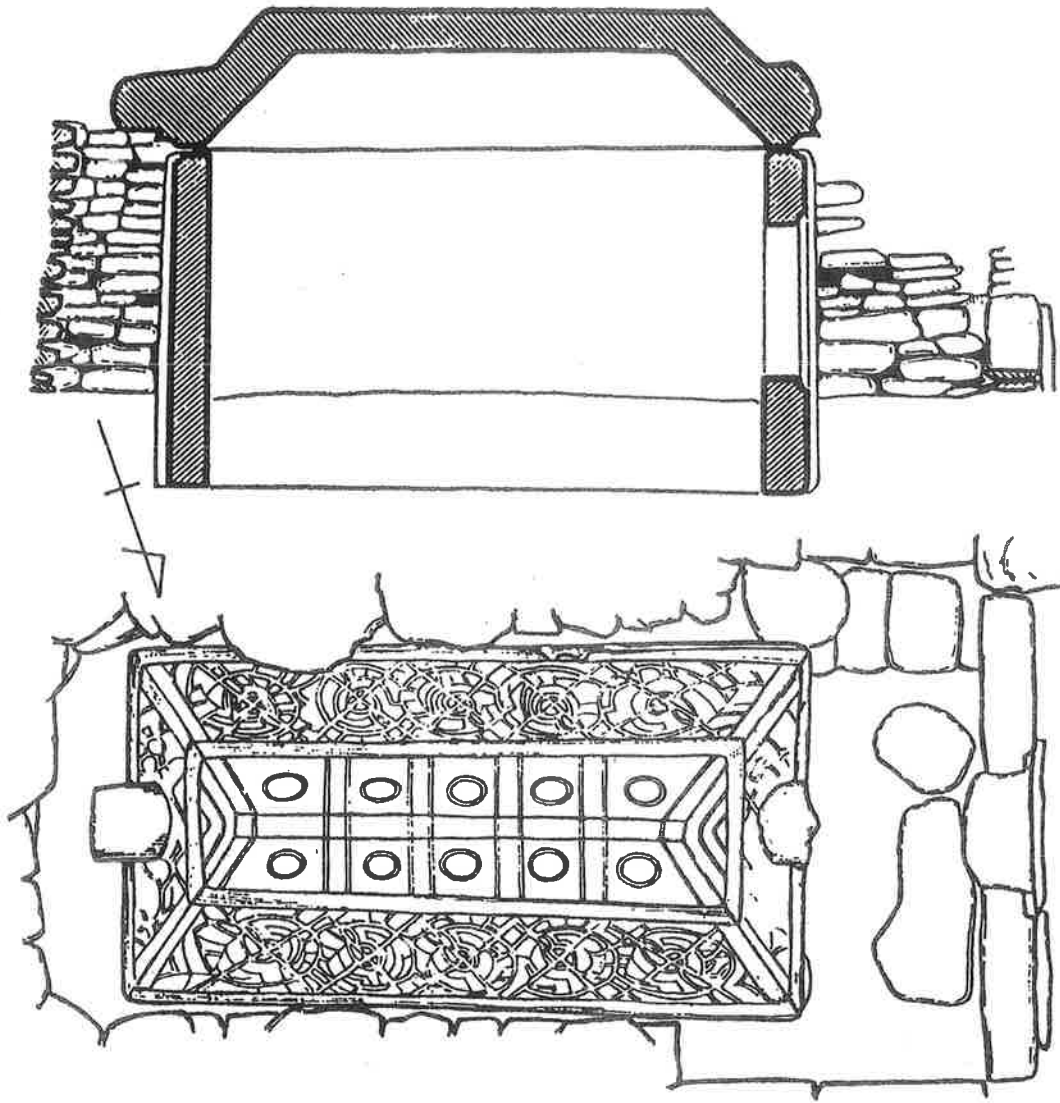
王塚古墳よりも、形象図文が多く見られるのは、福岡県竹原古墳で、前室奥壁の左・右に玄武と朱雀と思われるもの、そして、後室の奥壁には、龍のような怪獣・馬・人物・船・さしば・波文などが見られる。このような豪華なものはそう多くはないが、幾何学文や形象図文が部分的に彩画されたり、線刻される例は、六世紀後半の横穴式石室ではかなり知られている。同時期の横穴では、どちらかというところ簡略化されている。熊本県ナギノ古墳のように、入口に彫り出された三重の飾り縁の周辺に同心円文・円文のほか、三角形文や菱形文などの幾何学文を線刻し、赤で塗り分けているような例がある。

北部から中部九州にかけて盛行した装飾古墳は、日本の古墳文化全体から見ても、異常なまでの発達を見せていて、そこに測り知れないエネルギーと独創性を感じる。彩色に使われた顔料は、専門家の化学的分析によると酸化鉄（赤色）、粘土（白・黄色）、岩粉（緑・青色）、そして、炭素やマンガン（黒色）などといわれるが、どんな溶媒で溶かされたかはわかっていない。それにしても、当時の人びとの生活の知恵には驚かされる。装飾古墳は、前述したように、年代や地域、したがってまた構造によって、図文の種類や装飾技法が実に多様であるが、共通していえることは、やはり、辟邪・鎮魂の意がこめられていたことはまちがいなさう。

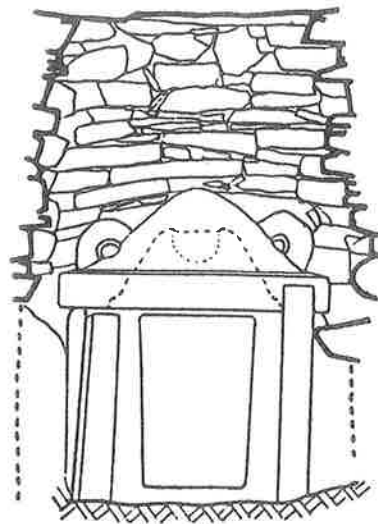
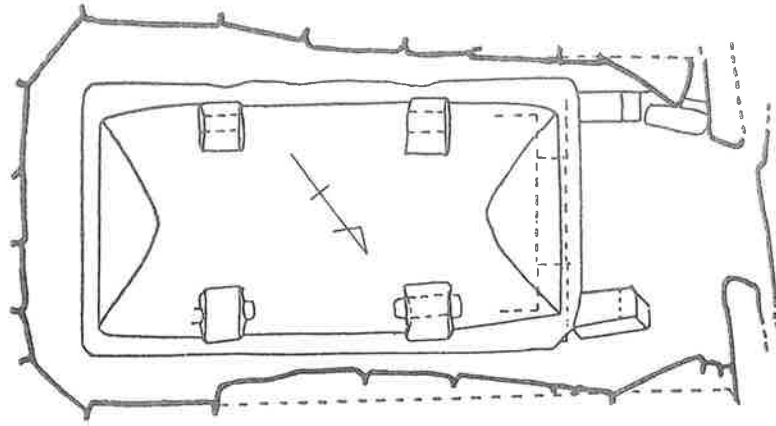
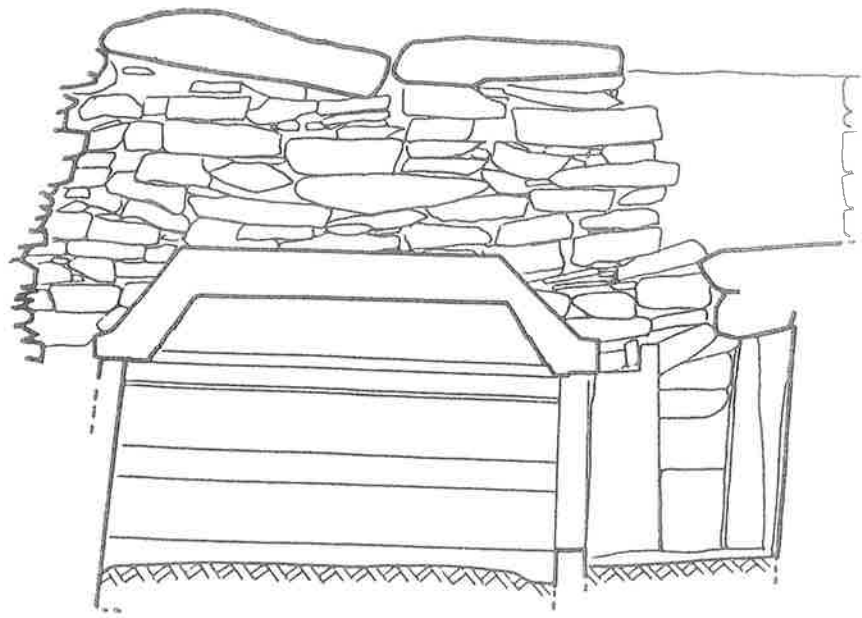
九州の装飾古墳のなかで、特に注目しておきたいのは、朝鮮半島三国時代の高句麗の壁画古墳との関係である。竹原古墳の朱雀・玄武、ならびに、福岡県珍敷塚の奥壁の二匹の蟾蜍（ひきがえる）のほか、王塚古墳では、前室奥壁左側の上部に描かれた両手・両足を広げた小人物像は、高句麗古墳壁画中の守門将を連想すべきであろうか。さらに、福岡県日ノ岡古墳の奥壁全面を飾る同心円文の多用も、高句麗との係わりがあるかもしれない。これらの装飾古墳が築造された六世紀後半といえば、朝鮮半島では、新羅の勢力拡大に伴って、高句麗と倭は、新たな交流を開始するが、そうした国際情勢の転換を背景として、高句麗壁画古墳の影響を理解すべきであろう。なお、装飾古墳は、初期には前方後円墳との結びつきも深く、各地の首長層を背景としているが、後半期ではかならずしもそうとはいえないようである。



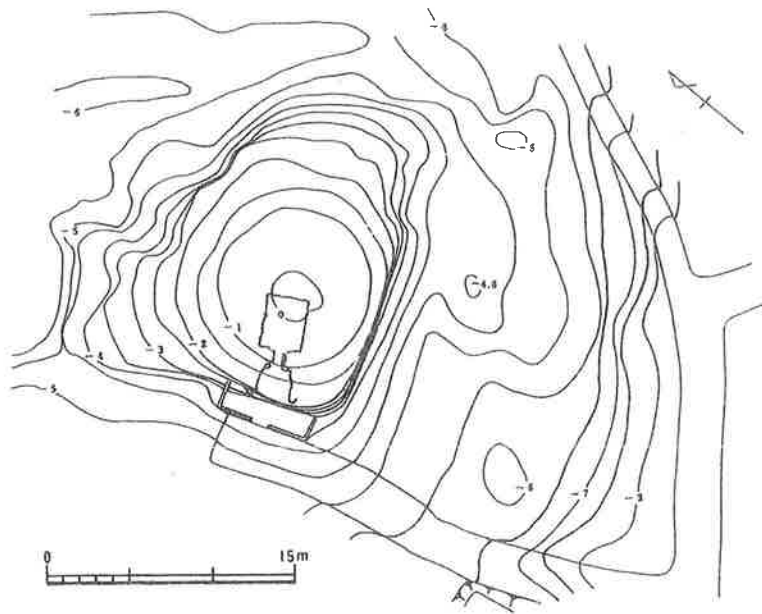




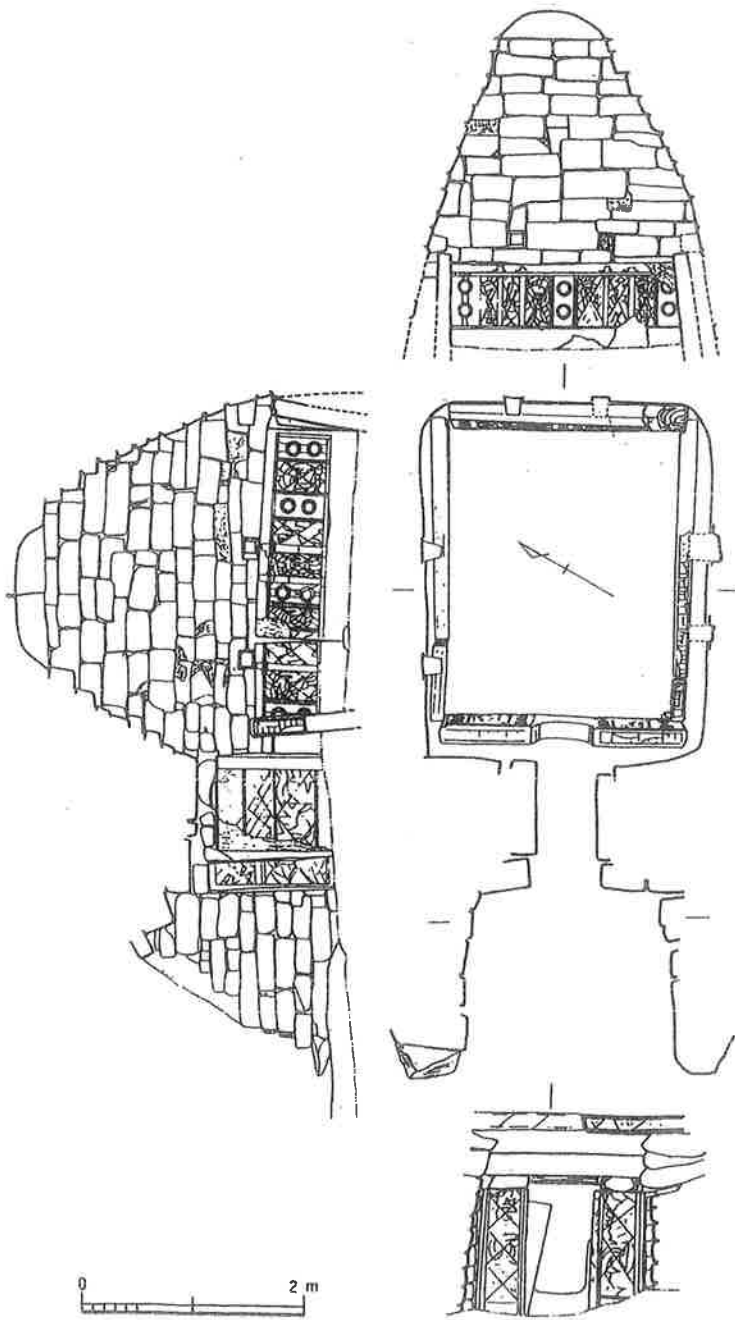
石人山古墳の石室と横口式石棺



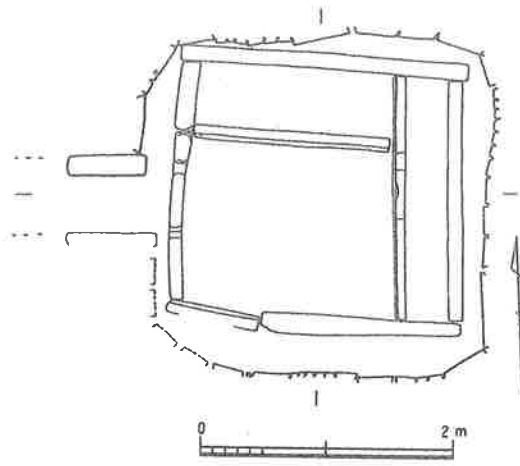
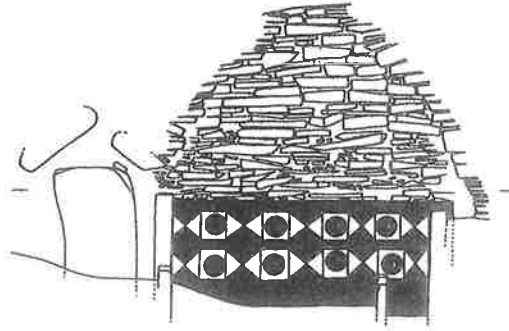
浦山古墳の石室と石棺



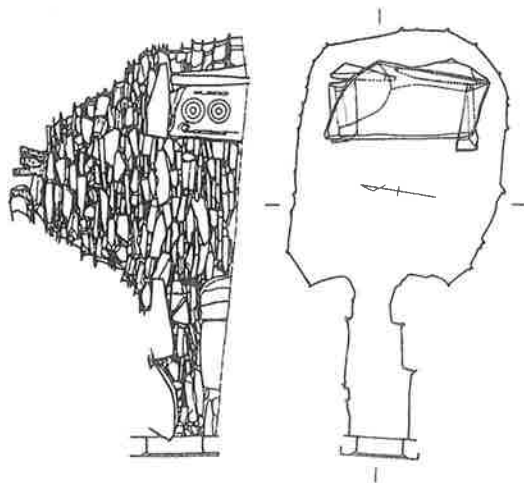
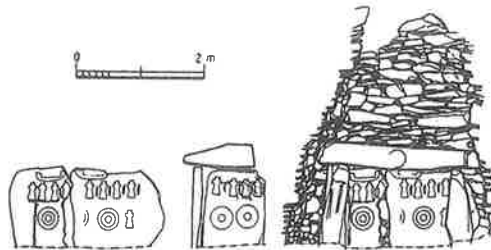
井寺古墳 墳丘測量図



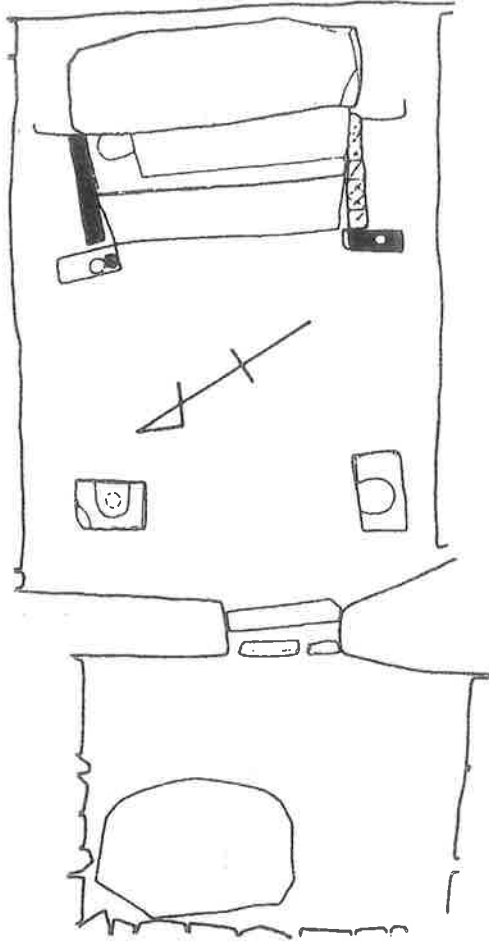
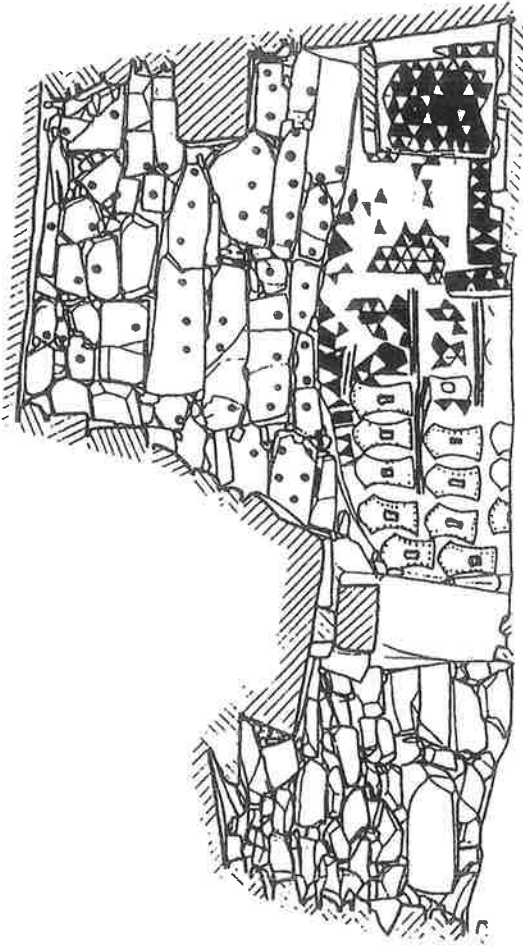
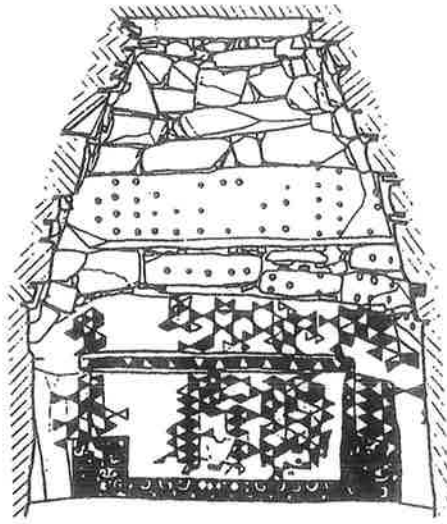
井寺古墳 石室実測図



千金甲1号墳 石室実測図



千金甲3号墳 石室実測図

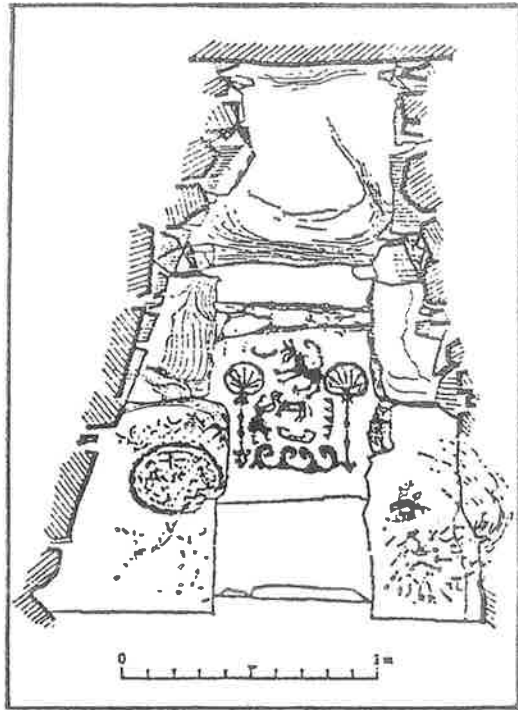


王塚古墳の横穴式石室



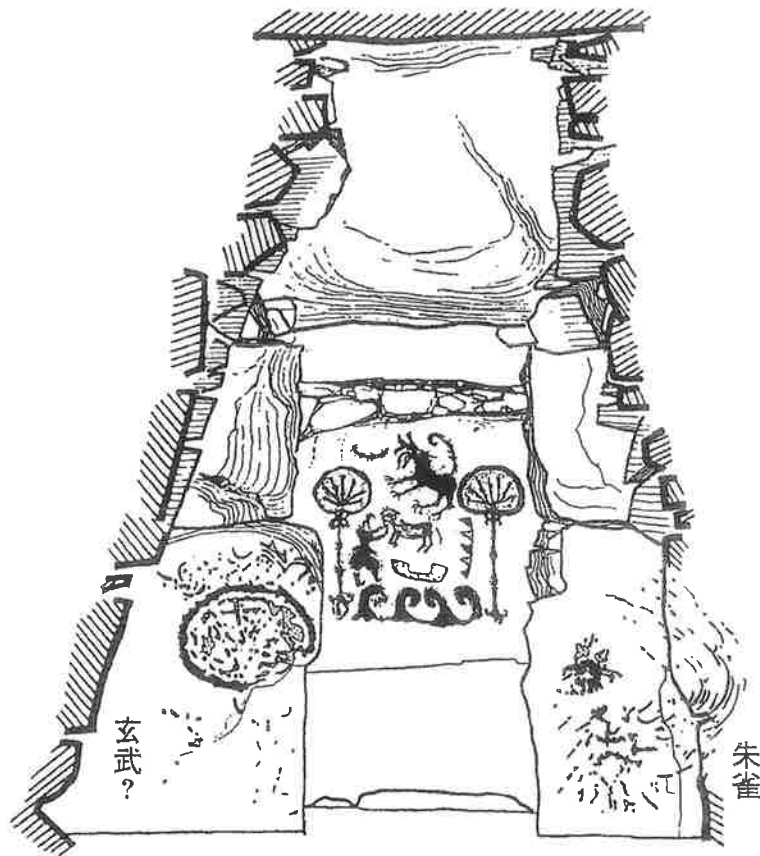


福岡県竹原古墳 (森貞次郎原図)

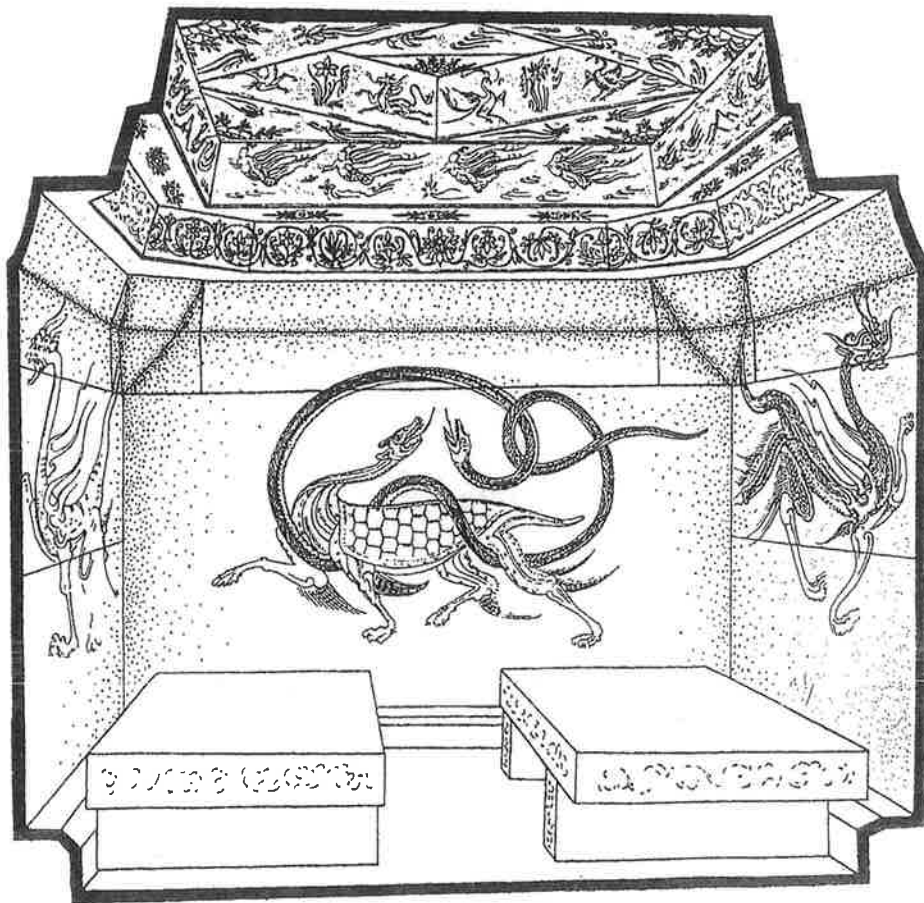


竹原古墳壁画(森貞次郎『装飾古墳』より)

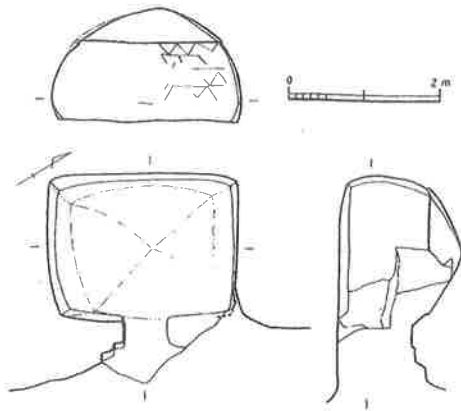




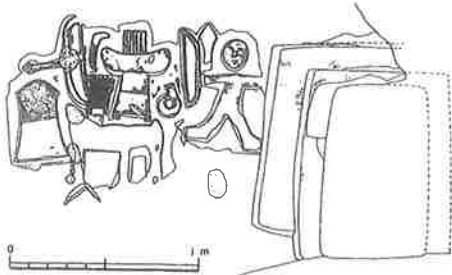
竹原古墳前室からみた前室と奥壁の壁画



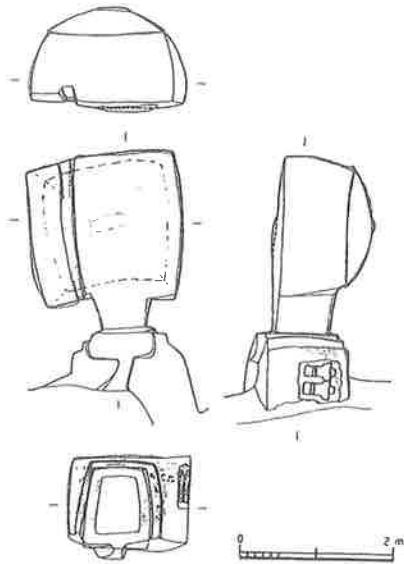
北朝鮮・江西大墓石室内の構造と壁画
正面・玄武、右・青龍、左・白虎



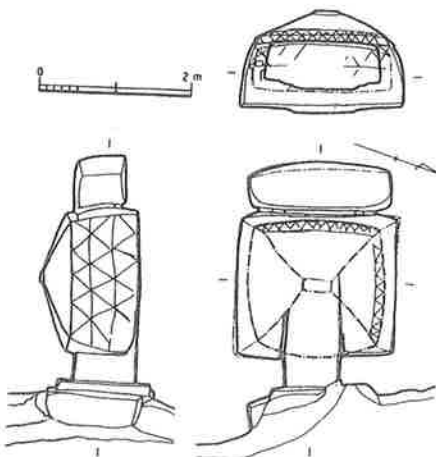
鍋田横穴群 27号実測図



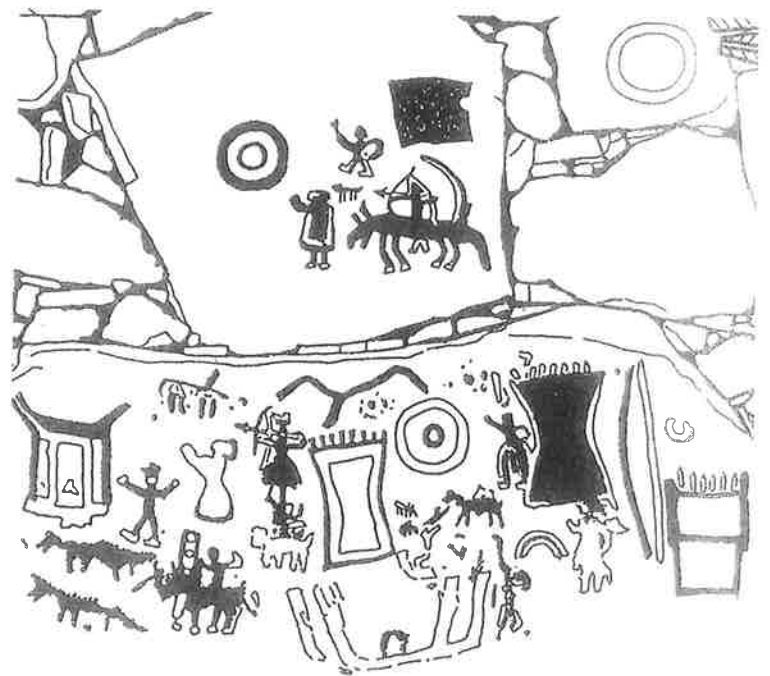
鍋田横穴群 27号外壁の装飾



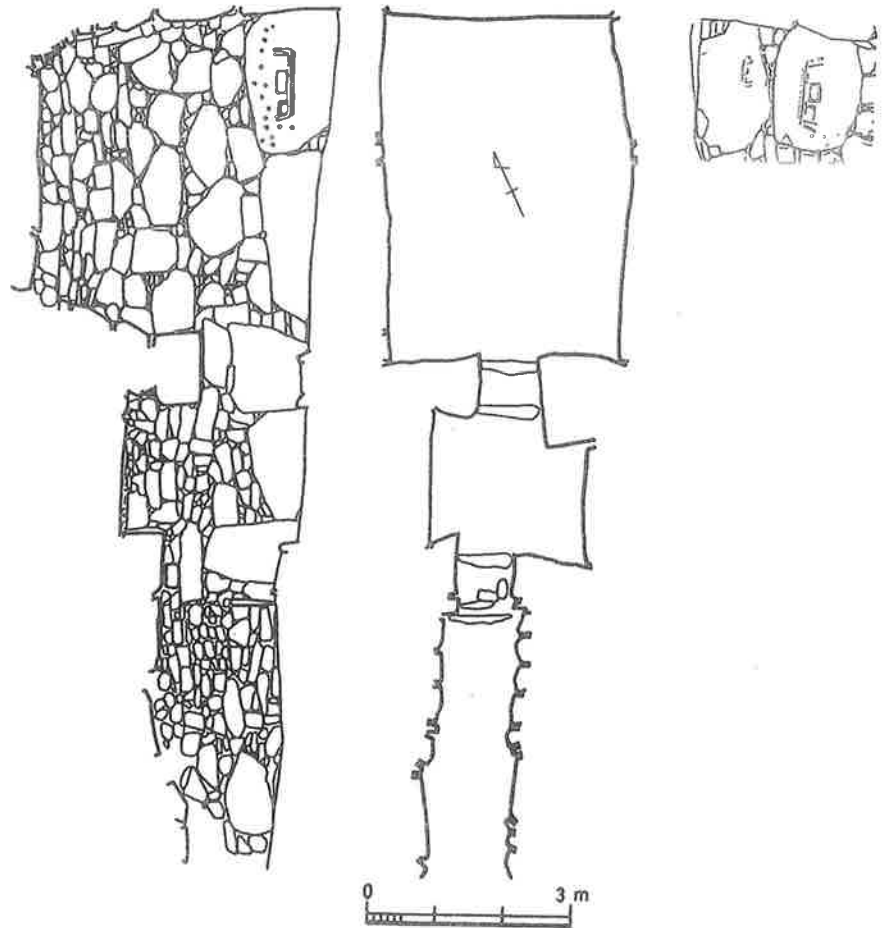
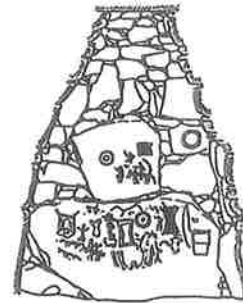
鍋田横穴群 14号実測図



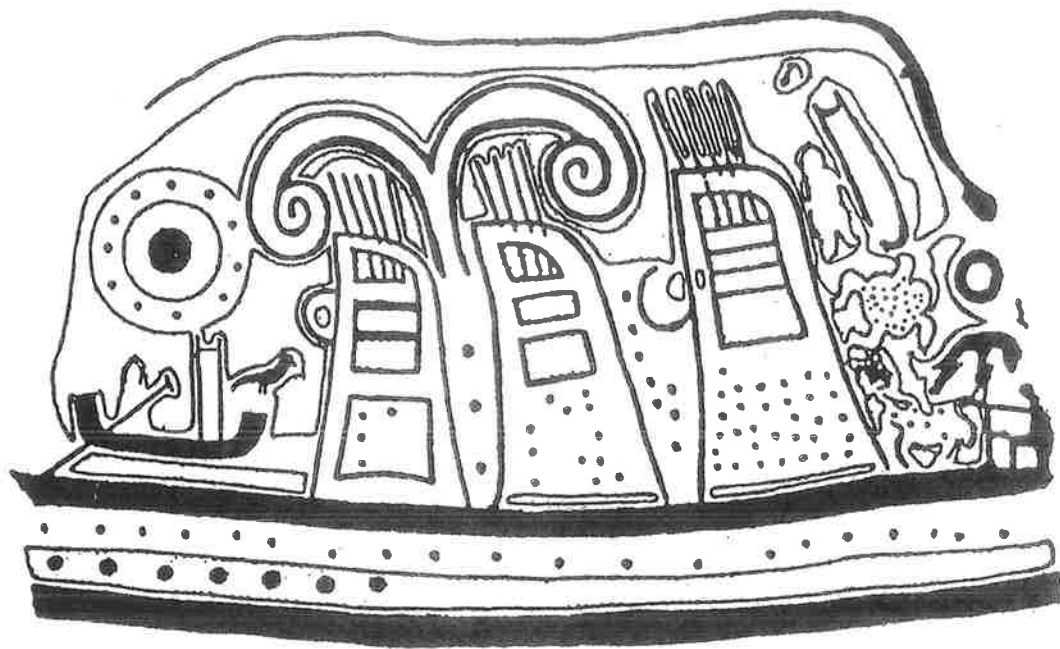
鍋田横穴群 53号実測図



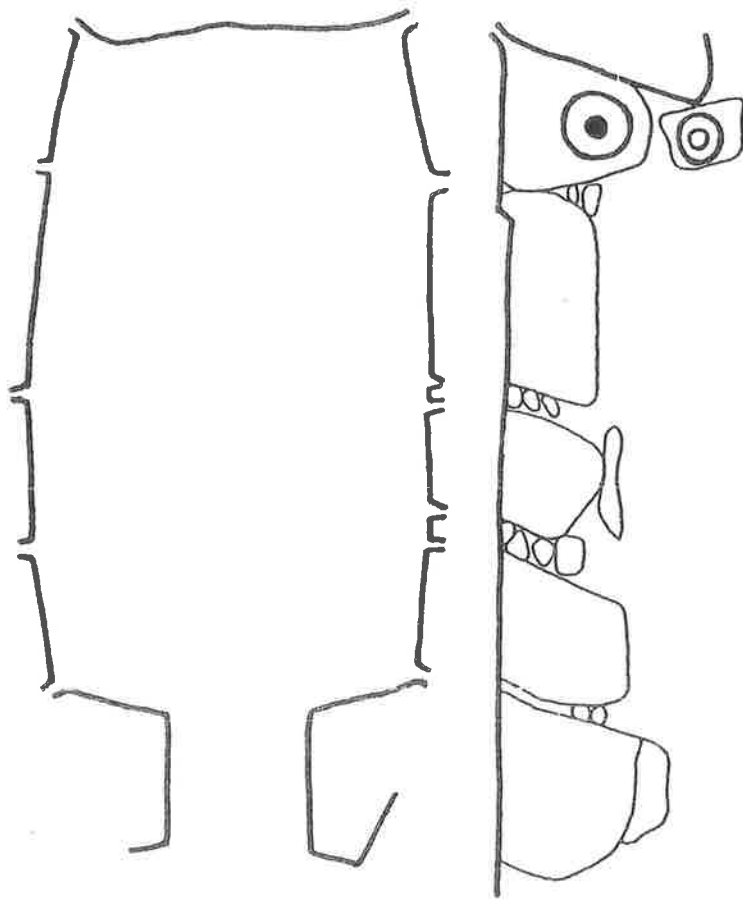
福岡県五郎山古墳 (小林行雄原図)



五郎山古墳の横穴式石室



福岡県珍敷塚古墳（小林行雄原図）



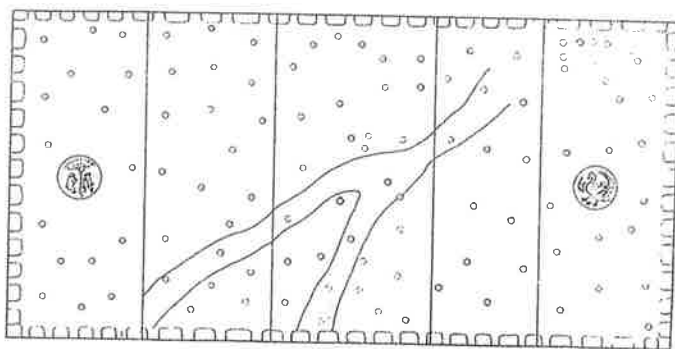
珍敷塚古墳の横穴式石室

日月像

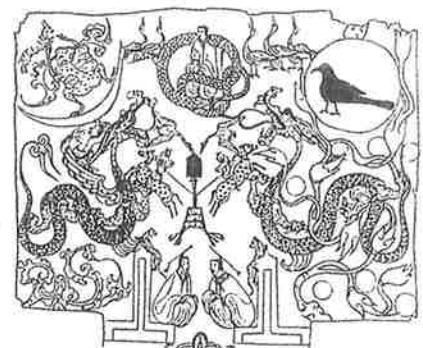
太陽を表現した図像“日像”、同じく月を示す“月像”。陝西省三原の李寿墓(唐・貞観4年[630])の壁画のように、中国の日像には三本脚の鳥、月像には月桂樹の下で仙薬をつく兔(月兔)がしばしば描かれます。月像には、湖南省長沙馬王堆1号墓出土の漢代の布帛(織物)のように、月兔とヒキガエル、あるいは単独のヒキガエルが描かれるものも多くみられます。これらは、それぞれ、伝説を反映したもので、日像の鳥は、金鳥、跋鳥、日鳥、陽鳥とも呼ばれ、太陽に住むとも、太陽を運ぶともいわれます。特に、太陽を運ぶ三足鳥は、当初10羽おり、それが一斉に太陽を運んでいたため、地上に大きな災いをもたらされたので、弓の名手・羿げいにより、9羽が撃ち落とされ、現在のように、太陽が1つになったと伝えられています。また、月像のヒキガエルは、その羿が女神・西王母から人間のためにもらいうけた不老不死の仙薬を盗み、月に逃げた、妻の嫦娥(常娥)が変じたものであり、月兔は、嫦娥が月につれていったものとも、西王母のためにもいわれますが、不老不死の仙薬を月桂樹の下でついているということです。

こうしたヒキガエルや月兔を描いた月像や三足鳥を描いた日像は、朝鮮半島や日本にも伝えられており、日本では、福岡県吉井町珍敷塚古墳(6世紀後半)の壁画には、月像を象徴するヒキガエルがみられ、奈良県斑鳩町中宮寺の天寿国繡帳(7世紀前葉?)には月兔を表した月像が知られています。また、なによりも、今日まで伝わる月兔が餅をつくという日本の伝説は、中国の伝説が変化したものといわれています。

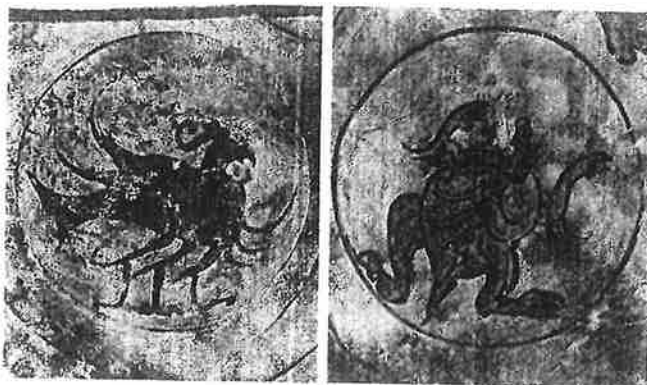
続日本紀によれば、大宝元年(701)の元旦朝賀の儀式に際して、大極殿前門まえに四神の幡とともに日像、月像、そして三足鳥である金鳥の幢が立てられました。おそらく、それらの日像、月像には、三足鳥や月兔が表現されていたことでしょう。



陝西省李寿墓天井天文図(潘2009)



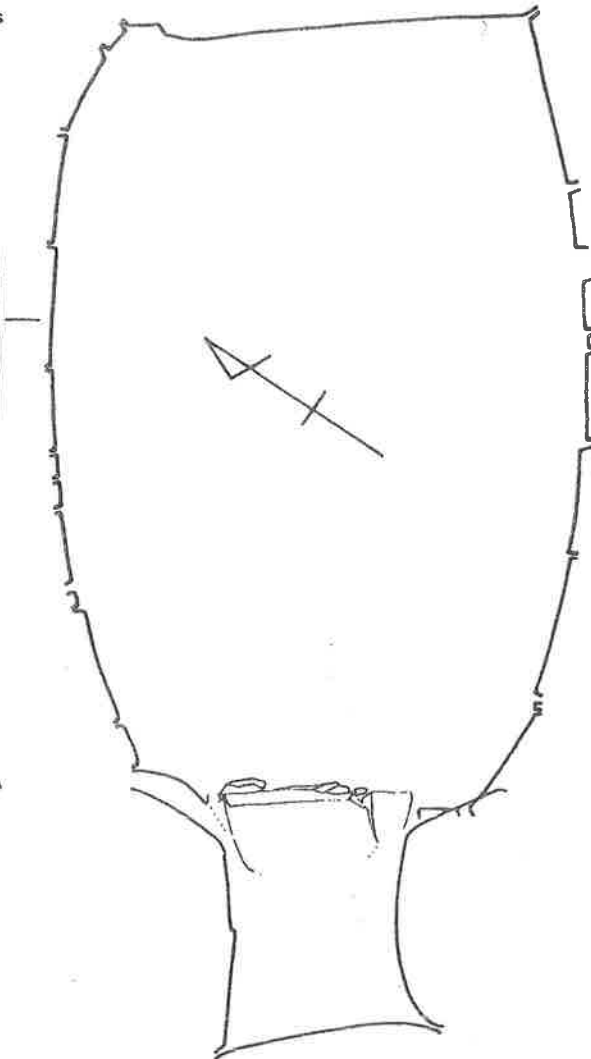
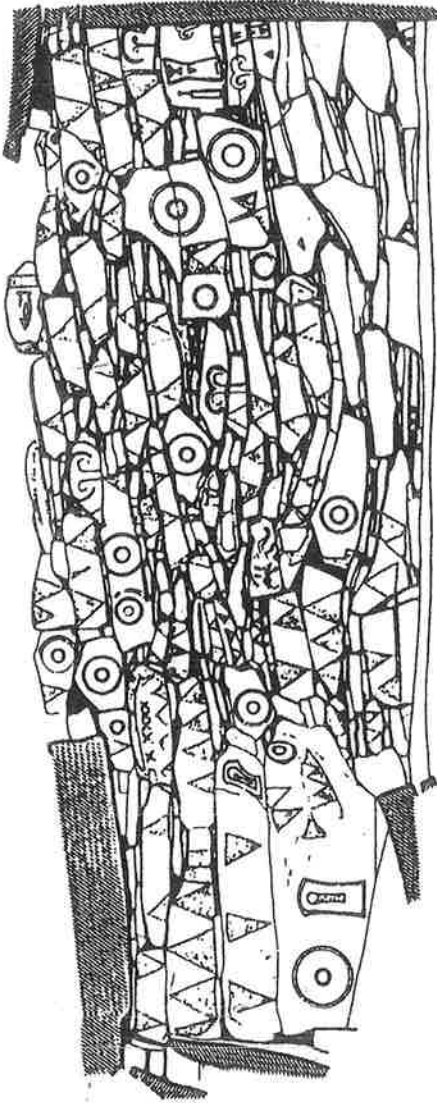
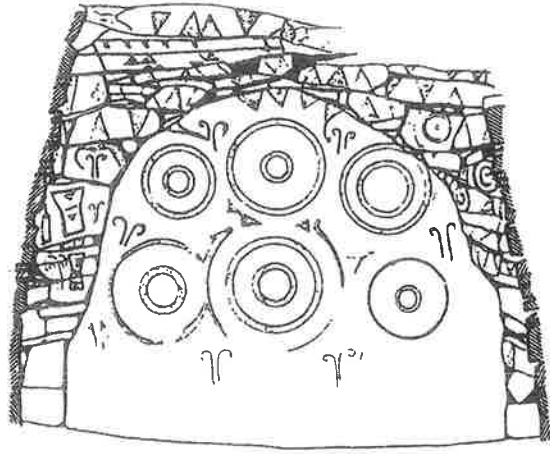
湖南省馬王堆1号墓出土布帛(林1993)



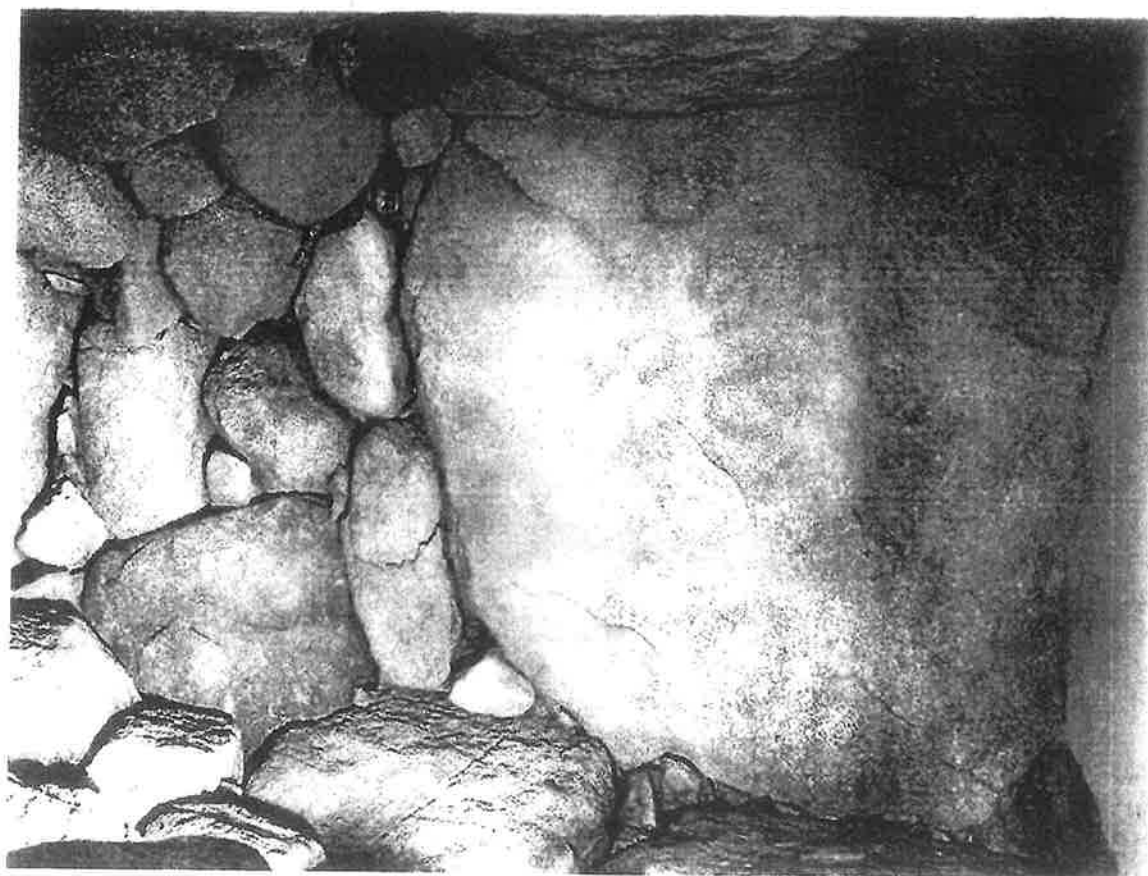
平安南道双楹塚古墳の日像(左)月像(右)(朝鮮総督府1915)



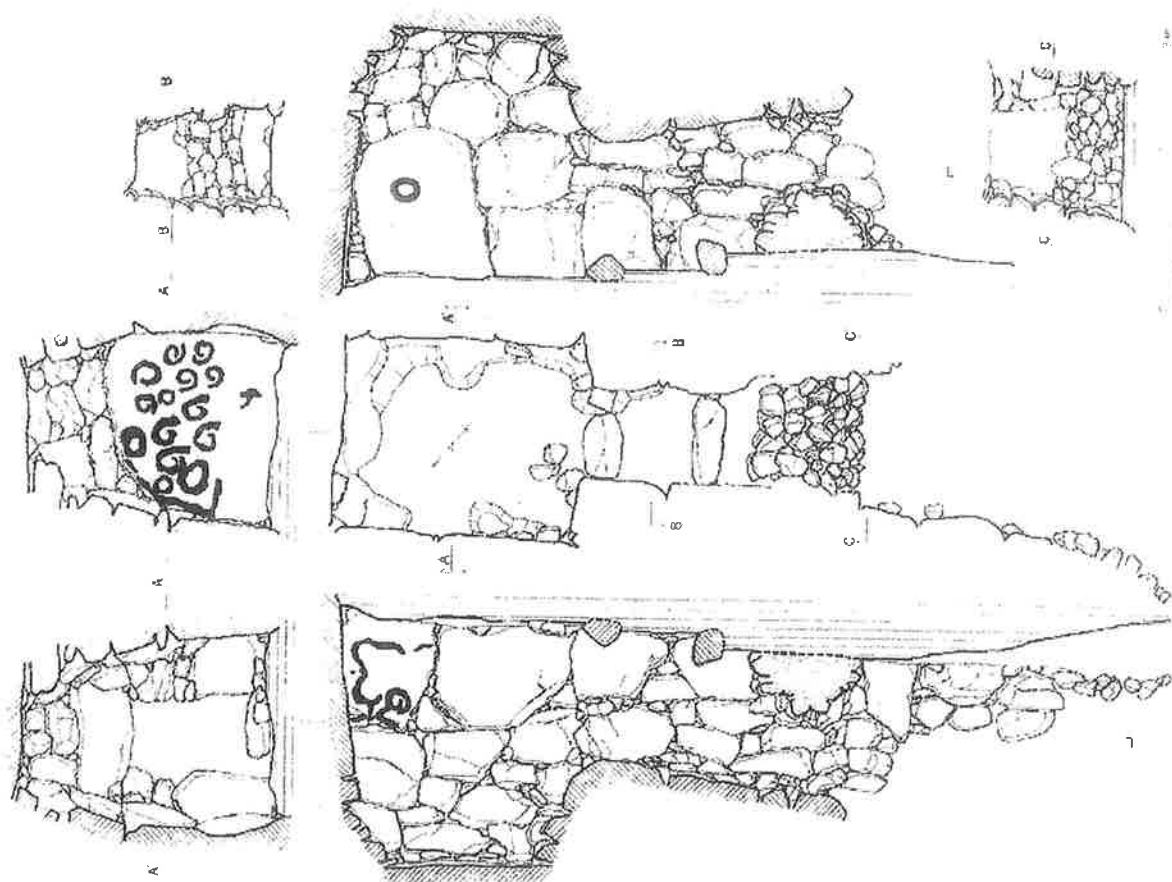
福岡県珍敷塚古墳の月像(大塚2004)



日ノ岡古墳の横穴式石室

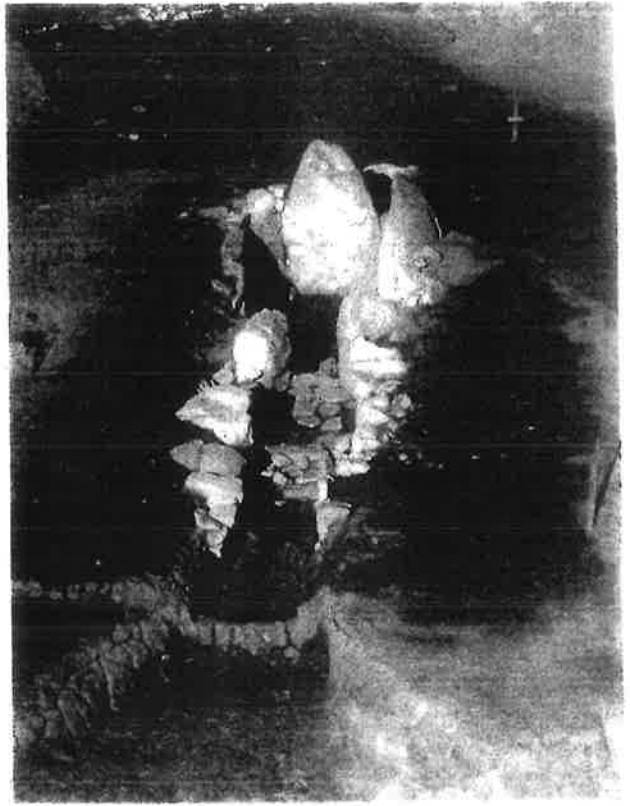


吉武熊山7号墳彩色壁画

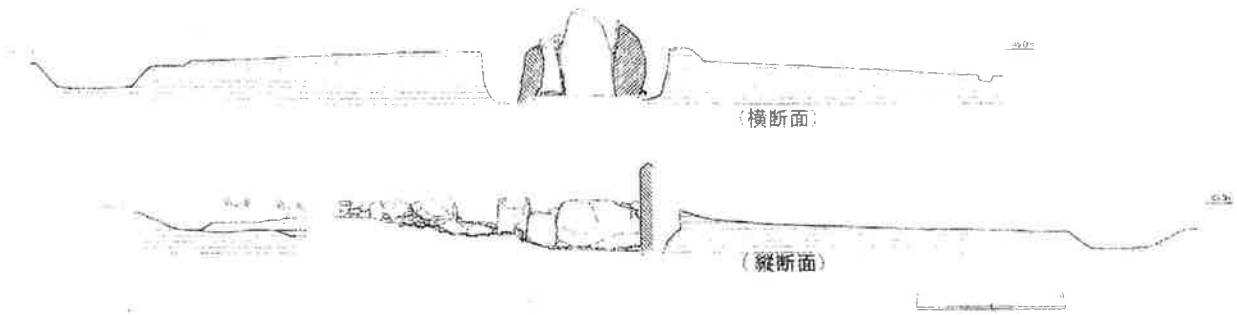




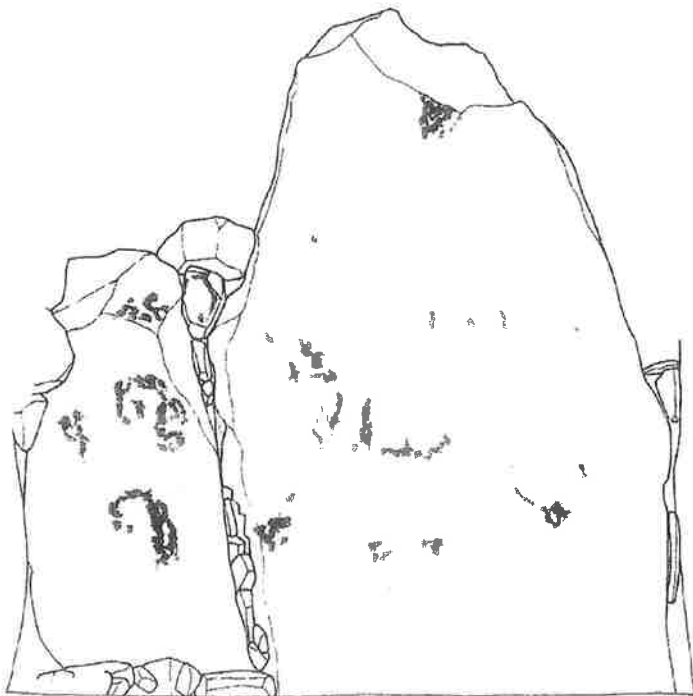
浦江1号墳全景（南西から）



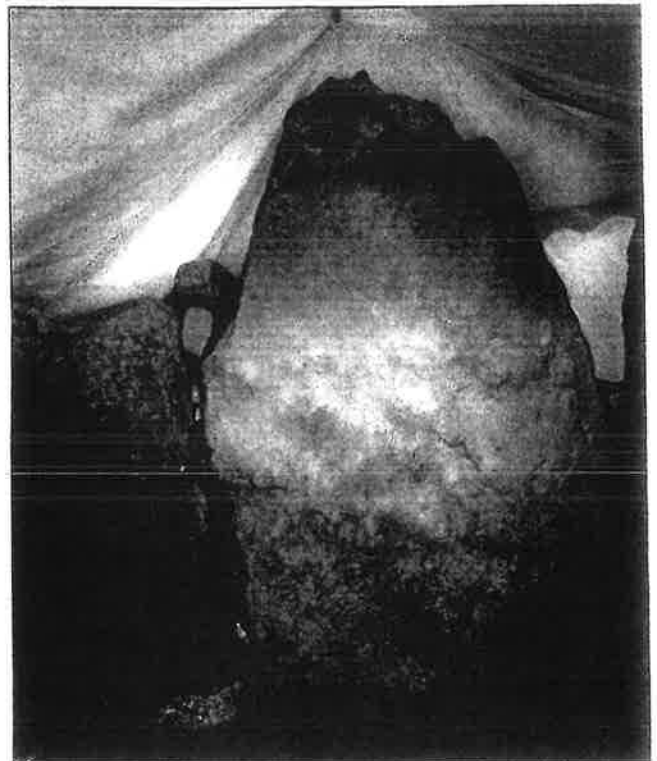
石室全景（南から）



石室横・縦断面図



奥壁彩色壁画実測図



奥壁彩色壁画写真